

第24回 市民参加懇談会コアメンバー会議

- 市民参加による政策検討会議 -

議事録

1. 日 時：平成18年7月3日(月) 15:00～17:15
2. 場 所：中央合同庁舎第4号館 11階共用第1特別会議室
3. 出席者：木元座長(原子力委員)、碧海委員、浅田委員、新井委員、出光委員、井上委員、岡本委員、小川委員、小沢委員、東嶋委員、中村委員、吉岡委員  
(原子力委員会) 近藤委員長、齋藤委員長代理、前田委員  
(内閣府) 戸谷参事官、森本企画官、赤池補佐、
4. 議 題：1. 「市民参加懇談会 in 姫路」の開催結果について  
2. 次回の市民参加懇談会の開催地候補について
5. 配付資料  
資料市懇第24-1号 「市民懇談会 in 姫路」の開催結果について概要、アンケート結果  
資料市懇第24-2号 ご意見等への対応について  
資料市懇第24-3号 次回の市民参加懇談会の開催地候補について  
資料市懇第24-4号 第23回市民参加懇談会コアメンバー会議議事録

木元座長 ご出席の予定でしたが、松田さん、加藤さんから本日ご欠席の連絡がありましてちょっとご参加が減りましたけれども、時間になりましたので、始めさせて頂きたいと思います。

もう既にお気づきでいらっしゃると思うんですけども、お二人新しい方がいらっしゃいます。浅田さんと出光さんです。よろしく願いいたします。

それぞれお見知りおきの方もいらっしゃるかと思いますが、エネルギー、特に原子力に関してはご専門の立場でいろいろとご意見など発表されていらっしゃいます。こちらの会もメンバーに加わっていただこうと思ひまして、お願いさせていただき、ご快諾を頂きました。お名前の順番はその通りあいうえお順でその席に座っていただきましたので、よろしく願いいたします。

#### (1) 「市民参加懇談会 in 姫路」の開催結果について

事務局より、資料市懇第24-1、2号について説明した。

木元座長 当日、姫路にいらした方もいらっしゃいますし、そのときに発表なさったパネリストとしての浅田さんも今日ご出席いただいています。司会進行は中村浩美さんにしていただきましたので、まず中村さんの方からどんな感想をお持ちだったか伺いますが、姫路は、会場が横に広がっていたんです。パネリストも多かった上に横並び、客席も横に長く広がっていて、右の端から左の端は伸び上がって見ないとわからないというようなところもあったんです。それだけに、前と後ろの関係は大変近くなってお顔が見えたりしました。そういう物理的な条件があったんですけども、感触としてはそれぞれのお顔が眺められてよかったのではないかなという気がします。

それから、アンケートでもいろいろいただきました。パネリスト同士がやり合うというか、意見交換をする場面が結構ありました。また、間違ったデータが出た場合に、いやこれはこうだというご説明があったりして、それらをご参考にしていただけたということがこのアンケートの中からもうかがえる内容になっております。

中村さん、司会していただいて、それぞれ毎回感触が違うかもしれませんが、姫路の場合はいかがでしたか。

中村委員 アンケートのご意見にもあるように会場設定は、ちょっとやむを得ずああいふ形になったので、私ももちろんやりにくかったですけれども、会場の皆さんも左右に、右側十何人、左側十何人という人数が並んでいるから、ご覧になりにくかったかとは思

んですけれども、お話の内容というのは、多分かなりご満足いただけるというか、ああそこが知りたかったというお話がパネリストから大分出していただけたので、そういう点では参加性というのは非常に高く、会場のそういう雰囲気というのも司会者の方にも伝わってくるような感じだったと思います。

そういう意味で非常に本人としてはいい印象を持ってはいるんですけれども、ただ、一つだけ難しいなと思いましたが、とにかくこの問題というか、原子力関係のときのパネリストの選び方というのは、いわゆるネガティブなご意見をお持ちの方をどうセッティングするかというのがいつもポイントになるわけですね。発電関係のときとはまた違って、この放射線利用の場合はそのところが非常に難しい要素があって、特に完全に誤ったデータというか、自分が聞いたデータを鵜呑みにしてしまっている方がいらっしゃるの、パネリストにそういう発言をどこまでさせるかというところが、私自身もちょっと難しいところで、座長が最後にフォローして頂いたので、間違っただけ情報は会場の中で訂正はできたと思うんですけれども、私自身も、それからコアメンバーの出席した皆さんも、ああいうときにどういう反応をしたらいいのか。その場で間違いは間違いで正しちゃう方がいいのか、パネリストのご意見としてお聞きしてしかるべく対応する形がいいのか、いつも感じることでございますけれども、特にああいう身近な放射線利用というようなテーマのときには、そこが逆に非常に危ういことにもなりかねない。全く白い状態でお聞きになっている会場の方にとっては、やはりインパクトがありますから、情報としては間違っているんだけど、やっぱり物の言い方が、女性としてとか、主婦としてとか、母親としてのようなまぐら言葉がつくと、それなりのインパクトがあると思う。

専門家はいいんですけれども、そういう市民の代表の方とか、NPOで活動していらっしゃる方、その活動自体は認めるんですけれども、我々がこういう催しをやるときのパネリストの選定というのは、これからも慎重にやらなければいけないなということを感じましたが、懇談会全体としては非常にいい催しになったのではないかなと考えています。

木元座長 ありがとうございます。

姫路という場所を選んだのもどうだったかなとか、お客様は来ていただけるかしらという懸念もありました。それから、テーマが放射線ということで、どのぐらいの方が関心を持ってくださるかというのを懸念しましたが、大変多くご参加いただいて、中村さんも今おっしゃったけれども、若い方というか、学生さんが結構いらして、終了後もご質問をいただいたりしましたけれども、ああいうのも良かったと思いました。

コアメンバーの方々に、今日ご出席の中にもご参加いただいた方いらっしゃると思いますので、お一人お一人から同じようなことを伺わせていただきたいと思いますんですけども、どんな感想をお持ちになったか。

碧海委員、いかがですか。

碧海委員 一つは、やはり時間とテーマの点を考えると、すべて扱い過ぎたかなと。我々がWENでやっているフォーラムでは、食べることと医療なら医療に絞っていますから、それでも時間が足りなくて、なかなか十分に語り切れないというところがあるんですけども、そういう意味で少し網羅し過ぎているのかなというのは感じました。

ただ、前から放射線をテーマにしたいというふうに思っていたので、今回、それが実現してよかったと私は思っています。

木元座長 ありがとうございます。

小沢さん、飛行機が遅れ今すっ飛んで来てくださってありがとうございました。

碧海さんがおっしゃったように、今回パネリストのメンバーをごらんになっていただいても、小佐古先生は全体をカバーしてくださるとか、阿部先生は医療の関係、浅田さんはいつも放射線を市民と語り合っているというお立場からとか、それから多田さんは食品照射でとか、工業の面は南波さんにフォローしていただくとか、それから放射線利用にちょっと批判的なご意見の方をお二人ということでした。これはご参加の方を選ぶのに時間がかかったという経緯もありますけれども、そのことで網羅し過ぎた点は確かにあるかもしれませんね。

では、井上委員、いかがか。

井上委員 地元に近いので喜んで参加しました。

これだけのパネリストの先生方とコアメンバーを入れて相当の数になるので、どんなふうに運営がされるのかなと思ったんですけども、私は今までの市民参加懇談会の中で一番座っていて座りがよかったというか、居心地がよかった。というのは、多分、私にとっても本当にこれだけの分野の先生方から、非常に端的にポイントをついて問題点なりをおっしゃっていただいた機会は、私にとってはなかったもので、私は一フロアの参加者的な立場ですごくよかったです。

やはりこういう機会はもっともっとあらゆる場所で、消費地とか何とかではなく、本当に全国的に広げていけたら、もう少しコンパクトで小さい規模でもいいと思うんですけども。ですから、コアメンバーとしては何の役にも立たないんですけども、私自身がと

てもいい場として学習できました。ありがとうございました。

木元座長 ありがとうございました。

中村委員からご提言があった、どれだけ間違っただけの情報に対してその場でフォローしていくか、あるいはやり合うか、そういう場合はまたほか方法があるか、そのことは後でご討議させていただければと思います。

では、続いて小川委員、いかがでしょう。

小川委員 今回、初めて勉強会みたいな感じで、一般の方のご意見を聞く時間はもともと設けなくて、予め質問をいただいてそれに答える形式だったんですけども、私としてはとても勉強になりました。井上先生がおっしゃったように、私もとても充実した時間だったと思います。参加者の多くが初めて、原子力、放射線を知るという会に出てくるということは少なかったんじゃないかと思うんですけども、参加者の多くの方が満足感の高かった会だと思います。

今回、初めて正面に放射線というものを捉えてやる会だったので、ちょっと総花的になるのも仕方がなかったのかなと、そういうふうに思います。それで、放射線の問題は、とりあえず総花的にやっておいて、いろいろな視点があるんだということを知る最初の、市民参加懇談会として意味があったと思います。

何人か方のアンケートで、質疑応答の時間がないというようなことを書かれていますけれども、今までの市民参加懇談会のアンケートの中には、逆にもっと勉強したかったという声もここにある以上に数があったと思うんですね。ですから、今回意見交換の時間がなかったという方にはちょっと申しわけないんですけども、こういう形であってもいいんじゃないかなと思いました。

それから、中村先生が最初におっしゃった事実誤認をしているようなパネリストの方がそのまま意見なさっている。それがきちっと修正されないままやむやになっているということに関しては、私も非常に疑問を感じましたけれども、そこで議論をする場ではないというようなこともコアメンバーの立場としては言っているので、そののところ、よい落としどころがあるかなということもこれからは考えていきたいと思っています。

木元座長 ありがとうございました。確かにそうですね、ちょっと考えましようね。

では、東嶋委員、いかがでしょうか。

東嶋委員 私は3点ございます。

まず初めに、コアメンバーのことですけれども、今回、姫路の会では非常に知識普及の

面が強かったと思うんですね。知識普及の面ということで、パネリストの方が沢山いらっしゃっていただいていたので、その説明がわかりやすかったのですが、そこでコアメンバーが質問したりして、それによって市民の方からの意見とか質問を得る時間がなくなってしまいました。ですから、こういうふうに知識普及型のシンポジウムのときには、パネリストの方だけでよいのではないかと思いました。

そして、それに関連してなんですけれども、先ほど来、間違っ知識をお持ちの方をパネリストにいいのかどうかというお話が出ていますけれども、やはり知識の普及のためなのか、それとも例えば食品照射は是か非かのように、討論型のシンポジウムなのか、あるいはその地域において原子力をどうするかというような広聴型のシンポジウムなのか、タイプをもうちょっと鮮明にして、それによってパネリストの方を選別すべきだし、コアメンバーが全面に出るかどうかも、ちょっとそれによって対応を変えていった方がいいのではないかなと思いました。

それから、3番目にテーマのことですけれども、今回、分野が非常に広がったんですけれども、これは私はよかったと思っています。どうしてかということ、食べ物だけに興味のある人がタイヤにも照射していたのかとか、別の分野でも使っていることを聞いて興味を持っていただけなので、初めの何回かは、しかも知識普及型の場合はこんなふうに分野を広くやって、あとは例えば討論型に移行して行って医療をやるとか、食品をやるとか、もうちょっと絞っていてもいいのではないかと思いました。

木元座長 ありがとうございます。これからの問題、いろいろ含まれていると思います。

それでは、吉岡委員、いかがですか。

吉岡委員 幾つかあるんですけれども、皆さんがおっしゃっているように、これは市民教育イベントであって、その意味では私としてはやや不満です。市民は観客として参加しているんで、市民参加のより完全な形とはかなり違っているなど。だから、他でおやりなればいいんじゃないかという気がやはりぬぐえないわけです。

それで、次にどうやったらいいかということとも恐らくかわると思いますけれども、政策の選択肢を幾つかつくって、どれがいいのかの合理的な議論というのがあってしるべきであったのではないか、それがなかったというのが残念です。例えば医療放射線被ばくについては、民間団体が被ばく管理手帳というのを作っています。その文章表現はかなり刺激的なんですけれども、医者や看護師に見せると、表現は刺激的だけれどもおもしろ

いわねというような反応が返ってきます。そういう民間組織の試みを国として応援するか、どうするのかというような問題があります。今は一病院でしか管理されていないわけですから。そんな問題が一つの政策選択肢としてあります。また重粒子線治療が患者には300万円だけど、総額からいえばもっと高いと思うんですけども、無駄だという意見が少なくない。これは医者のエッセーなどを割合系統的に見てみると、医療費が全般にひどく抑制されて、包括払い方式で特定医療は一定の額しか出ない。医療機関はそのスタンダードを一見守っているようなんだけど、実は守られてなくて、ものすごく経済原理に敏感な医療機関というのが実際は少なくない。だから、包括医療によってかなり患者が犠牲にされているというような、そういう要素があると思うんです。多くの医療機関は真面目であり、ちゃんとやっていると思うのですが、そういう状況がある一方で重粒子線治療は無駄じゃないか、ものすごく高い費用対効果では論外ではないかというようなことをぼろっと医者がエッセーで書くというようなことが散見されるので、この答えというのがやはり出されてしかるべきではなかったか。

それと、放射線の食物に対する照射についても、やはり費用対効果が問題だ。誰が求めている、どれだけの経済的な利益の推定があるのかとか、そんな議論がなされてしかるべきだった。最後はちょっと皮肉も入って申し訳ないんですけども、量子ビームテクノロジーというのが私にはわかりにくくて、かえって放射線とは何かの定義をわかりにくくしているという面があると思うのですが、例えばこれを解決する一つの方途として、WHOが非電離放射線の防護について今年の秋レポートを出すそうで、そこで非電離放射線の防護基準についての国際整合化というのが、それをきっかけに恐らくなされる可能性があると思うのですが、少なからぬヨーロッパ諸国では、放射線は非電離と電離は一括して同じ機関が扱っているという、そういうことがありますので、例えばそれをどうすべきか。それは省庁の縄張りを侵すことになりましてけれども、総務省が必ずしもちゃんと包括的な規制体制を敷いていないという、私はそういう認識ですので、この際、原子力委員会がやるという、例えばそういう政策選択肢というのもあったのではないかと、あるいはあるのではないかと。もしもう1回やるとすれば、そういうちょっと鋭角的な論点を出して、少人数でやってたらどうかという、そういう意見です。

木元座長 吉岡委員は前からおっしゃっているのですが、少人数でということをおっしゃいましたけれども、今ご提示になったテーマそれぞれ意味があることですが、東嶋委員がおっしゃった3つぐらいあった中に、知識普及型と広くご意見を伺うというのと両方あ

ったんですけれども、今回の放射線という性格から、何か放射線がわからない人が多いということで、ああいう普及型みたいな感触になったんですが、やはり原点にあるのは、例えば放射線なら放射線に一般の方がどういう見解を持っていらして、そしてどういう質問があって、どういうことがわかってないかということを知るとというのが前提にありますよね。それを前提にして、どうやって探っていくか、どうやって私たちが把握して、また次の展開にしていくわけです。本当は時間がかかることなんですけれども、吉岡委員は政策選択肢とおっしゃったけれども、政策にかかることで社会問題になっていることをぶつけてみるのも手かもしれないし、いろいろなご議論ができるような気がいたしました。

今回、メンバーに入っていたいただいた浅田委員がパネリストとしてお出になっていますので、浅田委員はどのような感触をお持ちになったか、一言お願いいたします。

浅田委員 多分、そこに参加させていただいたことがきっかけで、きょうここにお席をつくっていただけたのかなと、そういう意味では記念すべき懇談会だと、感謝申し上げます。それまで一般市民として2回ほど参加させていただきました。

今回のテーマは、私どもが4年半ほど続けていることもあってか、市民の立場として本当に知らないことがほとんどの現状を見ていますので、そういう意味では知識普及型としてやっていただいてよかったのではないかなと思います。そして、一般市民の方からのご意見はなくて、パネリスト同士の意見交換になったことも、現状をとらえれば、これで代弁できているのではないかなと思ひまして、そういう意味ではいい形でできたのではないかなと思います。

そういうまだまだ知らないことがほとんどであって、しかし怖いという思いが強い日本の現状であっては、こういう形をしばらく日本の各地でやっていくことに意義があるんだろうなと、そんなふうに思っています。

木元座長 ご参加いただいた方から今ご意見を頂戴したんですけれども、今度は全員からご意見なり、ご感想、あるいはご質問をいただければと思いますが、どなたからでも結構です。今回のこの姫路の件に関して、ご意見がおありでしたら、よろしく申し上げます。

本当に現場に行ってみないとつかめない部分がありますし、前回出と同じかと思うと違うご意見だったりということもありますので、難しいとは思うんですけれどもね。

小川委員。

小川委員 小さなことですが、コアメンバーにとっては前の日にSpring - 8に行きましたよね。あれがすごくよかったと思います。それで私には非常にいい市民参加懇談

会だったと思います。やはり勉強会というか、前の日の効果的な時間があると、それはそれでよかったなと思います。問題がどこにあるかをキャッチすることは、さっき浅田委員は代弁と言いましたけれども、代弁する時にとても必要なことだと思うんですね。一般の人よりちょっと事実を知っていれば、よりうまく代弁できるので、そういうような勉強をしたことでよかったと思います。

木元座長 ありがとうございます。

東嶋委員。

東嶋委員 今の小川さんのご意見に関連してなんですけれども、パネリストの方でNPOの方がお二人いらしてくださいました。小若さんと安田さん、あの方々はその当日に見えたとそのとき伺ったんですけれども、その専門でないパネリストの方々に、例えばSpring-8の見学というのはお声をかけたのでしょうか。

といいますのは、やはりコアメンバーだけが見学するのではなくて、せっかくの機会ですから、そういう市民団体のどちらかというところと反対意見の方にこういった最先端の研究を見ていただいた方がいいのではないかと私は思うんですが。

木元座長 あのときお声かけたんですか。

赤池補佐 今回はかけておりません。

木元座長 実情を話しますと、かなりいろいろな方にご出席のお願いをしたんですね。これは、例えば安田さんだったら、食政策センター・ビジョン21、それから小若さんでしたらNPO法人の食品と暮らしの安全基金代表ということになってはいますが、ダイレクトにどういう問題意識を持っていらっしゃるかというのがわからないので、いろいろなお声を聞いたんですけれども、ご遠慮なされる向きがあったりして、なかなか決まらないんですね、何日か前まで。そういう実態もあったことは事実なんです。おっしゃったように見学なんかは一緒に行きたいですね。機会があれば是非それを実現させていただきたいと思います。

ありがとうございます。

中村委員 よろしいですか。

そういうケースになった場合は、一緒に共通体験をして、次の日意見交換するというのは非常に有効だと思うんですが、それはそれとして、全体の雰囲気は先ほど言いましたように良かったじゃないかなと自画自賛しているんですが、しかし、大いに反省すべき点はやっぱりあって、ちょうどその前のときのコアメンバー会議の議事録がここにあるからあ

れなんだけれども、やっぱり我々、姫路をどうするかというのが詰め切れなかった。予想したとおり、いわゆる知識普及型の催しとしてやるのがよりよくて、その部分というのはかなりの程度できたと思うんですけれども、そうすると、やはり申しわけないけれども、小若さんとか安田さんというのはパネリストに適当なわけじゃなくて、お立場が全く違うので、その辺のところ整理できてなかった。

食品照射なら食品照射というテーマで意見を闘わせる場ならば、いろいろなご意見の方が出ていいんだけど、どう考えても、やはり放射線利用テーマを考えたときには、包括的にやるか、セグメントしたテーマでやるかは別にしても、当分の間は知識普及型、何を疑問に思っているかということ聞きながら、正しい知識を持っていただくというのが多分やらなければいけないことで、そうすると、市民参加懇談会が目指しているものとは必ずしもそのところでうまく重ならないということが放射線利用の場合はあると思うんですけれども、これはこれで覚悟しなきゃいけないと思うし、その辺の明確さを今回はどういう趣旨で、どういう形式にするかというあたりが我々も明確にコンセンサスできないままやってしまったという部分があって、ですから、全体としては雰囲気はいいのだけれども、一つ一つ見ていくと何かおかしいところもあったという結論にやっぱりなると思うんですよね。

会場からのご意見というのは、事前にいただいたやつは織り込みながら2部の方でやったつもりですけれども、やはりああいう参加型のイベントというふうになっていくからには、会場から直接ご意見を、あるいはご質問を受け取る時間というのをセッティングしないと、参加した方にとってもある種の不満というのは残ると思うので、その辺も含めると、やはりもう少しどういうふうに全体を構成すべきであったか、テーマの設定をどうすべきであったかというあたりをもうちょっと詰められなかった。我々も、いいよ、いいよ、やろう、やろうというふうになってしまったというのがやはりちょっと反省点です。結果としてはいいところもあったんだけど、これからのことを考えると、そのところはどういうスタイルの、あるいは目的の市民参加懇談会にするかということをはっきりした形じゃないと、変なところで混乱するなというのはわかりました。

木元座長 おっしゃったように、事前に、コアメンバー会議はなかなか開けないという実態もありまして、皆様はお忙しくしていらっしゃるのでもメールでやり合ったりということもあるわけです。でも、おっしゃったように、やはりその都度その都度、テーマが変わったり、場所が変わったりすると、やり方も変えていくことがあって当然ですよ。今ま

でも公募した方が発表してくださるという場合と、今回の放射線のように、こちらからお願いしてこういう方に出ていく場合と、いろいろなやり方をしてきたと思います。これからも検討課題として、その都度ご相談させていただき、ご意見いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

その他、何かご意見ございますか。

吉岡委員。

吉岡委員 姫路のように厳しい対立のない問題についてリラックスしてやるというものいいけれども、私から見れば、本来の市懇のペースにリセットをすればどうかというのが意見です。

木元座長 ありがとうございます。

碧海委員、どうぞ。

碧海委員 私の感想では、小若さんが、私はもっと食べること絡みの意見を言われるかと思ったんです。意外と小若さんは食品に関して余り言われなかったもので、それが私としてはちょっと意外だったということがあります。それは多分、余りにもほかがみんな専門家ですよ。だから、多少警戒されたかなという気もちょっとしました。安田さんの方はむしろそういう意味では正直に言われたという感じを持ちました。

知識普及型であっても、例えば沖縄で放射線を使ってウリミバエを不妊化することによって絶滅するというようなことに関して、アンケートの中に1人ぐらい疑問を持っていた方がいましたけれども、放射線を利用するという点に関して、広く、多少客観的な意見というか、評価をするような意見、そういう意見を例えばジャーナリストのような立場で言われる方はいてもよかったのかなという気はします。

つまり、小若さんや安田さんはどちらかと言えば、食品照射なら食品照射に割に狭めた部分での発言になってしまったわけですよ。そういう立場になってしまった。だから、そうじゃなくて、もう少し放射線利用全般について、多少距離のある意見であっても、そういうことを言われる方がいてもよかったのかなとは思いました。

木元座長 そういう場合、今、ジャーナリストという話が出ましたけれども、そういうご自分の意見をどこかで発表していらっしゃる方がいらっしゃると、こちらもお尋ねしやすいけれども、何も無いところで、肩書というか所属していらっしゃる団体から探していくと、なかなか決まらないですよ。

今回はそういうことを踏まえて、次のときには私たちも知識を網羅して、パネリストの

方をお願いしなきゃならないですね。

井上委員。

井上委員 今ちょっとお話を聞いていて思ったんですけども、この市民参加懇談会というのは、初めは原子力と主に原子力発電エネルギーということにおいて市民参加懇談会という名称をつけ、市民にいかに参画していただくか、そういう場をつくるかという趣旨でずっと来たと思うんですね。今回は原子力の範疇の中に放射線という分野があるという流れで姫路では「放射線」という話になったと思う。

そうすると、姫路の会場では、聞いている人もしゃべっている方も、これは原子力という範疇というよりも、食の安全とか、食の不安とか、遺伝子組み換えとか、そういう範疇の横に放射線照射というものを並べて、プラス医療とか工業とか、もっと生活に密着したレベルでこれをとらえている。そこに、これまでと同じように市民参加懇談会という看板を頭につけちゃったことで、参加している人は市民も参加できるんだという意見は述べた人もいた。しかし、知識のレベルというか、参加したり主催者側の歴史を言うと、原子力は50年の是か非かの論議をずっと積み重ねてきているわけですけども、この放射線照射も含めて、この分野は始まったばかり、今これからじゃないかという気がするんですね。こういうことを初めて市民の人に問いかけて、知っていますかとか、情報は届いていますかというふうに問いかけたのは。

だから、本当にこれからなので、市民参加懇談会コアメンバーもしくはここで取り上げるとしたら、少しそこを分けて 少し分けてというか、対応の仕方を分けて、2パターンあるというような考えで運営していったらどうかなというふうにちょっと思いました。

木元座長 悩むところだろうとは思いますが。ただし、私が原子力委員をやらせていただいている立場で考えると、原子力に反対する方の中には、放射線というものに対して殆ど知識を得ていないから反対するということが前提としてありますよね。

そうすると、例えば「被ばく」という言葉を聞くと、これは大変なことだと思ってしまう。だけど、地球上では日常的に私たちは「被ばく」しているんだけど、そのこともわかっていないという部分があると、じゃあそれをどうやって一般の方と接しながら、正確な知識を得ていただくか。放射線をどう考えますかと聞いて、怖いですというようなお答えが出てくれば、お互い交流し合い、非常にベーシックなところで話し合えるのではないかなと思うんですけども、どうやったらそういう状況になるか。

私はそういうものを実は期待をしているんです。交流により話は広がりますよね。放射

線が怖いと言いながら、じゃあお医者さんに行ってエックス線照射を受けて検診していませんかという、やっていますと。じゃああれは何ですかと聞くと、放射線だったと。だから、実は自分で気がつかないでいるので、そのことが多分こういうような市民参加懇談会の中で、広聴という立場でご意見を伺っていくと、必然的に知識を得ることができるという形になり得るんじゃないか。時間がかかる手法かもしれませんが、そんなふうに考えますね。

中村委員 そのこのところで、現実的に言うと、井上先生がおっしゃる形というのも当然あってしかるべきだし、吉岡先生言われるように、本筋はどこなのというのも大事なところなんです。もう少し現実的なことを言うと、市民参加懇談会の開催回数が少な過ぎるんですよ。これは再三指摘しているように、ランドデザインがないんですよ。年に何回はやろうとか、何年かけて、例えば放射線利用、食品照射については2年かけて少なくとも全国3カ所でやるとかということを決めてないんですよ。

もうはっきり言ってしまっても、やはり事務方の問題も多々あると思いますよ。多分、年に一度は声を荒らげて文句を言っていると思うんですが、やはりこの市民参加懇談会、コアメンバー会議の運営がはっきり言ってなっていません。そこに最大の問題があるわけで、吉岡先生のように、こういうふうにしたいと言っても、年に1回じゃしょうがないでしょう。井上先生のように、こういうのはやるべきだ、年に1回どっちとるのという話になりますね。これは年に何回もできない話なのかと、これは予算のこともあるし、それからスタートするのがどうして夏休み終わったころにいつもなるんだというような話も毎回しましたよね。

それから、年明けて3月までにどうしてやれないんだとか まあ今回はやったわけですが、その辺は甚だ申しわけないんですが、我々、コアメンバーではいかんともしがたい物理的条件というのがどうもあるようで、それをはっきりクリアにしてくれないと、参加して熱心にやっているのに張り合いがないというか、忘れたころにコアメンバー会議だし、忘れたころにやりますよですから、これはやっぱり根本的なところでちょっと考え直してもらわないと、今議論しているようなことも実現できるかどうかというのが、そういう条件で逆に阻害されるという現実をはっきり直視していただいて、どうあるべきかというふうに考えていただかないと、コアメンバーとしては、甚だ不満である。これはどうしても言っておかないといけないので、憎まれるのを承知で申し上げます。

木元座長 本当にありがとうございました。こういう方がいらっしやらないと市民参加

懇談会は成り立たないので、いいご意見いただきました。

私も同調する部分が若干ございます。でも、中におりますと、いやあ、それはやっぱり無理なんだという部分もあります。そこをどうやってクリアして、もしこの市民参加懇談会というものが次、次、次と継続していくのならば、いい基礎、あるいはグランドデザインを築いていければいいなど。あと半年ありますので、またよろしく願いいたします。すぐ開かなきゃいけないという思いもありますので、よろしく願いします。

小川委員。

小川委員 中村先生のご意見もありましたが、私が申し上げたかったのは、井上先生がおっしゃった原子力委員会の市民参加懇談会だから、原子力発電、エネルギーが主ではないかという点について、私自身は、常に原子力の広報活動をやっている中では、何十年も放射線利用と両輪でやってきたつもりなんです。確かにそれが結局、中村先生がおっしゃったような時間がないということで、そのときそのときの大きなテーマに集中してくると、結果として、エネルギーのことばかりやってきたということになってしまっただけで、常に放射線の利用とか医療放射線、いろいろなことは頭の中にあっただけです。ですから、主に出てきたのがエネルギー分野ですけれども、多分、多くのコアメンバーの方々は放射線利用だって本当はあるんだよという気持ちで来たのではないかと思います。

だから、シフトしてというのではなくて、本当は両方ずっとやってきたかったということだったと思う。

木元座長 結果として、井上さんも基本にはそういうお考えをお持ちでいらっしゃると思うので。

井上委員 ちょっと時間差があるでしょう。ずっとやってきたこととこれからやって。

木元座長 いこうとしていることとね。

いろいろな形も考えられるし、ご意見もまた沢山いただかなきゃいけないとは思いますが、他にどなたかいらっしゃいますでしょうか。

ありがとうございます。

丁度このぐらいの時間で姫路を終わろうかなんて思っていたので、この辺で一区切りさせていただきまして、中村さんがおっしゃってくださったんですが、もう今年だって3月にやって、それ以後やってないじゃないかと。では頑張ろうじゃないかということで、実は予定表もつけてございます。予定表というか、次回の市民参加懇談会についてというのがありますので、赤池さんの方からまたご説明をお願いいたします。

(2) 次回の市民参加懇談会の開催地候補について

中村委員 これも毎回同じで、1回も知恵が入った広報ペーパーというのは見たことない。やっぱりこれはもう少し提案型であってくれた方がいいなと思いますけれどもね。基本的に同じペーパーで、網かけの部分が変わっているだけでしょう、ずっと。

木元座長 そう、ただやりましたねという感じでね。

中村委員 それがちょっと理解できないんだな。もう少し建設的な資料の作り方というか、提案の仕方というのはないものですかね。

木元座長 簡単にしてしまっているということもありますけれども、そうすると、例えば事務局の案として、かくかくしかじかのこういうところはこういう課題を持っているし、ここでこんなふうにやってみたいというような、いわゆるたたき台みたいな案。

中村委員 はっきり言いますと、例えば最低でも二月に1回コアメンバー会議が開かれているのならば何も言いません。でも、そうじゃないんだから、こうやって半年ぶりぐらいに顔を合わせるときというのは、相当煮詰まったものを持って我々参加しなきゃいけないわけでしょう。そのための準備もできないしというか、何を準備したらいいかということもないし、今回のことだってぎりぎりでしょう、ご案内いただいているのは。資料もぎりぎりでしょう。その資料と云って後ろ向きの資料であって、前向きの資料はないわけで、そのこのところをやはり根本的に姿勢を正してもらわないと、議論の余地ないということになっちゃうんじゃないですかね。

木元座長 東嶋委員。

東嶋委員 中でどんなふうにされているのかわからなくて言うのですけれども、例えば今年度は何回ぐらい開催して、どういうテーマとどういうテーマでこういうタイプ、例えば知識普及型なのか討論型なのか広聴型なのか、こういうものをやりましょうぐらいな、ちょっと1年間計画ぐらいなものを初めに話し合った方がいいのかなと、毎回そのときそのとき集まったときごとに、今度は何しましょうと言っている感じがあるんですね。

ですから、今年度とは決めるのに際して、やはり事務局なりの方が、例えば今年度はこんなような問題がここで起こっているから、こちらでこんな問題があるからここでやったらどうでしょうみたいな資料をいただけるといいのかなと思うんですけれども。

木元座長 おっしゃるとおりだと思います。人員のこととか、それから予算もあるでしょうし、それから委員会の中でもほかの仕事で重要な案件があると、どうしても市民参加

懇談会の方は定期的にこうやるということが固まっていないので、後手後手に回ってしまうというきらいはあると思います。私もおわび申し上げなきゃいけないんですけども。

当初、市民参加懇談会を立ち上げたときには、年には3回以上やろうと。それから、そのテーマも我々が見つけるしコアメンバーの方も見つけてきていただいて、そしてそれをここに、たたき台として事務局が集めて、それをどんなふうに、どういうやり方で展開しようとかという話し合いをしよう、そういうような話までしていったんですね。1回目のときは、この中に何人かいらっしゃいますけれども、本当にもう刈羽村に通って、コアメンバーのご意見も集約して、交渉し、展開しての手づくりでした。公民館の2階のようなところでいすを並べながらやったという経過がございます。

ですから、そういうような精神を受け継ぎながら、あのときこうだったからこれができるかということが言えればいいんですが、今私ぐらいしか残ってなくて、また、いろいろな推移がありますので、前のときがこうだったからこうだというわけにはいかない部分もございます。

原子力政策大綱を今度新しくつくりまして、それをどうやって皆様方に理解していただくか、ご意見をいただくのかという重要な課題もあります。その中で、本当は市民参加懇談会は大きな役割を担うだろうと考えますけれども、これも原子力委員会の中でしっかりお互い話し合いながら、事務局とも話し合い、今の中村先生のご意見をしっかり受けとめさせていたどうかと思っています。

この件に関しては、ではこのぐらいにさせていただいて、またご意見があればおっしゃっていただければと思います。やはりいい方向に、そして成果のあるものにしていきたいと思しますので、よろしく願いいたします。

それでは、事務局から、1枚紙で評判のよくないものですが、ご説明を。

赤池補佐 申しわけありません。ご指摘どうもありがとうございました。

通例ですと、予算枠という固いお話をするつもりはございませんが、大体今までの慣例ですと年に二、三回程度の開催ということで事務局としては準備をして毎年やっております。

それと、あとコアメンバー会議の開催回数が非常に少ないんじゃないかというご指摘につきましては、確かに先生のおっしゃるとおり、できるだけ開催して綿密にという方向性と思うんですが、多方面ご活躍の先生方が多いこともございまして、前回の評価と、それから次回の開催地の計画というのを一度にやっしまおうという、かなり乱暴な議事運営

を今までちょっとしてきてしまったものですから、そういうところで十分な、詰まった議論ができなかったというところもございますので、そこはもしもコアメンバーの先生方のご了解あるいはご理解いただけるのであれば、もう少し頻繁に開催する、あるいは事務局の提案型の資料としていくということも、事務局としては考えていきたいと思っております。

ただ、いろいろ原子力委員会、多くの部会がございまして、すべての部会がこういう形でやっているわけではございません。例えばものによっては、事務局からかなり綿密なドラフトを用意して、それについて議論をするというケースもございますし、このコアメンバー会議のように、比較的平場で議論をしようというものもございます。ただそこは、最終的には先生方がお決めいただくことでありますので、もしも、より提案型の詳細な資料をご用意せよということでございましたら、事務局、主導的というふうにとらえるきらいもございますが、案を用意するというのもできるかと思えます。

ただ、いずれにせよ、今回につきましては、私どもちょっとこの1枚の資料しか準備はしておりませんが、できる限りの補足をいたしまして説明させていただこうかと思えます。

木元座長 以前、ご記憶かもしれませんが、候補地が出た場合に、この白塗りでまだ行っていないところですが、例えばここにはこういう課題がある、ここにはこういう実情があるということを、ペーパーとして出したことはありました。それは、委託契約先の方がお手伝いくださったので、資料はそろえていただくことが可能なんですけれども、随意契約ではまずいというような機運もありまして、なかなかこちらでお願いするという形がとれないような状況になっているのも事実です。そのところは言いわけばかり言っていてもしようがないし、言いわけは何の意味もないので、そろえるようにします。次回までに何とか。

中村委員 それとやはり、もう少しフレキシブルに考えていただいてもいいんですよ。何かかちっとしたドラフトを用意しろと言っているわけでもないし、我々としては事務局に作っていただいたとしても、それはあくまでも案であったり資料であるというふうにしかならえませんか。基本的にはコアメンバー会議というのはみんなで共通認識のもとに議論をしてどうするかということを決める場ですから、主導型にしてくれと言っているわけではないということ误解のないようにということ。

それから、もう少し頻繁に開くことができれば、つまり開けない理由の一つというのが、みんなのスケジュール調整というのもあると思うんですよね。ただ、これが年に1回とか

2回だから、どうしてもやはり99%以上の人に集まってもらわなきゃいけないみたいなことになるけれども、これがもう少し頻繁に開けるとしたら、3分の1の出席だっていいわけですよ、それが議論の場があれば。それで、実際に開催のためのコアメンバー会議、このときはもう可能な限りたくさんのメンバーに集まってもらわなきゃいけないけれども、でも今はどういう課題があるんだとか、こういうことをやりたいよねという話をするのは、はっきり言って3人か5人でも構わないわけですよ、我々としてはね、そのとき。だから、もう少しその辺をフレキシブルに考えていただければできるし、例えば木元先生がお時間あるときに、とりあえず3人集まってくれないかと。そこで今こんなことがあるから話をしておきたいからというような、コアメンバー会議の形があってもいいと思うんですよ、幾つかの中にはね。そういうふうに、もう少し考えていただければ、我々も余り腹ふくくる思いなくして、会議に参加できるんじゃないかなという感じですね。

木元座長 今までも何回か、中村さんからのご意見いただいたり、いろいろな工夫もしてみました。例えばどこかでやろうと決めたら、そのときにコアメンバーの中のコアメンバーというか、その会の担当という方を3人くらい決めましたよね。そういうやり方で回すということやってきたんですけれども、それもなかなか追いつかない状況になったりしているので、これは大いに考えますし、原子力委員会主導としてこちらが案を出すんじゃないかと、主導は市民参加懇談会ですので、あくまでも資料として、たたき台としてご提出するということはいたしたいと考えます。

赤池さん、お待たせしました。

赤池補佐 ご説明いたします。

資料24-3でございますが、まずここでは初めての方もいらっしゃいますので、網のかかったところが既に開催したところ、白いところがまだ開催していないところでございます。

これまでは立地地域それから消費地域、おおむね交互に交代でやってくるという傾向でございました。立地地域の候補といたしましては、北海道、宮城県、茨城県、島根県、愛媛県、佐賀県、鹿児島県でございます。北海道につきましては泊、それから宮城県については女川でございますが、ちょっと状況を申し上げますと、女川につきましては例の耐震の問題がございます。それから、あと一方、原子力安全委員会の方で現在耐震指針の最終段階という情報があります。

茨城県につきましては、もちろん東海村は原子力施設たくさんございますので、特段ご

ざいませぬ。それから、あと島根県松江市でございますが、松江市が市町村合併で、松江市が立地市町村という形になっておりまして、そこで中国電力さんの方で松江市それから島根県等といろいろなお話をされているという状況でございます。

あと、愛媛県伊方町でございますが、愛媛県の伊方町につきましては、新聞等の報道でございますと、町の幹部の方の交代等の動きがあるというふうに承知しております。

あと、佐賀県玄海町につきましては、これは市民参加懇談会では開催しておらないんですけれども、昨年8月に原子力政策大綱のご意見を聴く会を開催しております。

それからあと最後でございますけれども、鹿児島県の薩摩川内市ですけれども、こちらの方はまだ開催実績がないという状況でございます。

そして、核燃料サイクルの立地地域としては、青森と茨城県が代表的なところでございますが、青森につきましては既に開催していると。茨城につきましては、先ほどご説明したとおりでございます。

あと、消費地ですけれども、消費地はあまたありますけれども、代表的な大都市で開催していないところというところがございますと、札幌、仙台、名古屋、広島、四国であれば高松となっております。特に、愛知県につきましては、平成16年11月に原子力長計についてご意見を聴く会というのを開催しております。前回の開催地でのコアメンバー会議の開催地の議論では、札幌での開催についてもご議論があったというふうに承知しております。

以上でございます。

木元座長 今いろいろご説明ありましたけれども、知識としては、ほとんどご存じの方が多いかと思いますが、今とてもホットな課題を持つ地域というのは何も市民参加懇談会に行かなくても、例えば佐賀県の玄海とか、あるいは愛媛だとか、それから私たちがやった福岡だとか、そういうところはプルサーマルを導入するということで、いろいろな方が主催してご意見を聴く会あるいはご意見交換会、大討論会、そういう名目で開催しているのはご承知のことと思います。ですから、そこに改めて市民参加懇談会で伺うとすれば、どういう形ができるのかということが大きな問題になるかもしれません。また別の手法で我々は我々なりにということも考えられるだろうし、そこはご論議いただきたいところです。

立地地域の上から白の4番目で島根県松江市ですが、統合して県庁所在地に原子力発電所があるのは、この松江市だけということになるんですけれども、実は静岡県浜岡で市民

参加懇談会をやりました。それをごらんになっていた方からも耐震もあるけれどもプルサーマルということもあるので開催してみたいなというようなご意見は、実は来ていたんですね。ですけれども、市がプルサーマルについて市民の意見を聞こうという会を催すことになっているらしく、8月20日に松江で市が主催でシンポジウムの計画がある。県議会もそれにまた、いろいろな意見を言っているというようなこともありますので、もしかしたら近々9月とか、その辺だと無理かなということが一つありますし、事業者の方はなるべく重ならないような時期にお願いしたいというご意見がありました。

それから、伊方町の方も、いろいろあるようで、中村さんもいらしていますよね。

中村委員 今月もあります。

木元座長 とても多いんですね、回数が。

中村委員 はっきり言って、伊方、松江はやはりちょっと、今の時期として我々行けないですね。自治体それから事業者がいろいろな形できめ細かくやっていたらしゃるので、そこにどういう形に入るかというのは非常に難しく、松江は多分出光先生もお出になることになると思うんですけれども、伊方もこの間一緒だったんですよ。我々行った感触でいくと、やはり市民参加懇談会、今やはり松江、伊方それから玄海はもう動き始めていますからね。行くならもうちょっと先になっちゃうだろうと思う。ちょっとホットなこのあたりは、ちょっと不適切じゃないかと思います。

木元座長 私もそういう意味で、今年やるとしても随分遅くになってからじゃないかと思うし、私も行っているので余り言えないんですけれども、ほかでやったような二番煎じ、三番煎じになるような形はとりたくないという思いがあります。そうなってくると、上の発電所の立地地域の中で絞られてくるのは薩摩川内市、これも合併して薩摩川内市になったんですけれども。鹿児島県かな、という気がします。

吉岡委員。

吉岡委員 何か、これ毎回見せられていると、選択肢がいかにも少ないというような気がしてきます。外国に行くのはどうかなという気はするんですけれども、マーシャル諸島などは大いに興味があるところですが、それは無理だと。

中村委員 いいね、ユニークで。

木元座長 いいですね。

吉岡委員 横須賀がいいんじゃないかというのは私の提案です。原子力空母は、中型原発ぐらいの出力になりますので、従来の原発が1基来るのと同じ程度であり、発電所の立

地地域に相当すると思いますので、一つの方法ではないかと思います。

木元座長 なかなかユニークなご意見が出ました。その場合に、どういうテーマにしますか。原子力空母についてのご意見？

吉岡委員 やはり「ウェスティングハウス社製の空母用原子炉の安全性 知りたい情報は届いていますか」だと思います。

木元座長 わかりました。それも一つの案として。

中村委員 案というよりは思いつきの段階だと思いますけれどもね、まだ。

出光委員 すみません、よろしいですか。

木元座長 はい、出光委員。

出光委員 発電所の立地地域の中で、北陸電力の志賀とかは入っていないみたいなんですけど、ここはどうなんでしょうか。

木元座長 入っていませんね。失念しておりました。ありがとうございました。

そうすると、何か余り波風立たない無難なところという方向になってきそうな気がして、鹿児島県の薩摩川内市だと、今申し上げているようなきらいもなきにしもあらずなんですけど。

中村委員 やはり立地、サイクルも含めて、立地地域というのはホットなところは今すごくホットだし、それから泊、それから薩摩川内のように、特に今直面するあれもなくってというところが多いので、どうなのかなと、消費地かなという感じはするんですけどもね。サイクル立地で青森、六ヶ所というのは、やったとは言いながら状況がまるで違うじゃないですか、今の原燃の状況と考えたら、僕らがやったときのサイクル立地の状況とは全然違うわけでしょう。

木元座長 青森でやったときとはね。

中村委員 はい。だからそれで言うと、逆にホット過ぎるところもあって、我々一体何するのという部分もあるから、先ほど来の議論でいって、市民参加懇談会のあるべき姿というのをもう一回、言ってみれば原点に戻ってというふうに考えたときというのは、消費地でやるというのがリアリティーのある話なのかなという印象なんですけれどもね。立地は今ちょっと難しいんじゃないかなという感じですね。

木元座長 そうすると、立地の点だけ今チェックしているんですけども、鹿児島でやるというのは、現時点では余り意味がない。

中村委員 これはこの間と同じことを言っているんですけども。事業者に気を使うことではないんですけども、ただ日本第1号が玄海で、今着々と進捗しているところですよ。

そのときに薩摩川内というのは、はっきり言って九州電力にとっても大変だろうなという感じはありますよね。そこばかり思惑として持つわけではないけれども、あえて、では「なぜ薩摩川内なんですか」と事業者に言われたときに、我々がそれだけの必然性を今持てるかなというところは思うので、もう少し客観的に九州の吉岡委員とか出光委員に、逆にお聞きしたいような感じです。

木元座長 出光委員、実は川内市というのは、私は夫の先祖がその出身という経緯がありまして、割合そのところは細かく情報が入ってきているんですけども、増設については結構いろいろもまれたことがありました。

最近では落ち着いてきているし、お互いともに意見を言うようになったからいいんじゃないかというご意見も出ていますね。

出光委員 鹿児島の方ですけれども、今おっしゃられたように、3号炉の増設絡みの話が表に出ているような出ていないような微妙なところですよ。県側は、立地という話までまだ言っていない段階です。事業者の方で今事前調査をやっていますが、あれは鹿児島県への言い方としては、立地を目指したものではないという、何か奥歯にものがはさまったような言い方で、一応調査をさせていただきますということでやってはいますが、立地のための調査ではありませんという言い方になっています。県としては、立地ありきで調査をするなというふうなことを事業者に言っているということで、ちょっと事業者としてはなかなか微妙な立場の中で調査をやっていくというのが実態ですね。

あと、鹿児島県の県民性なのかどうかよくわかりませんが、企業の中にも完全に原子力賛成というわけではないという風潮のところがあります。ですから、どこの企業というところまではつかめませんが、そういう雰囲気若干含まれているというのが鹿児島県です。どこが問題なのかと言われると、なかなか何を争点にしているかという、そういうところはないんですけども、全体としては一番南の方になりますので、少し中央から離れているというところ、あるいは昔の薩摩藩時代の心意気のようなところがあるのかもしれないが、中央に対して少し距離を置いてというところがあるのかもしれない。そういう雰囲気のところなので、ちょっとやるにしても、何か争点といえますか、何を目標にするかというところを決めるのは、なかなか難しいところですね。

3号炉のためのという、これは事業者としてはちょっとやめてほしいということになるかと思います。

木元座長 ありがとうございます。こうやっているいろいろ網羅していくと、あと、北海

道は立地地域として泊、それから消費地として札幌とあるんですけれども。今年頑張って、2つの地域でできるかなと。立地地域と消費地と分けた場合、それぞれから1ヶ所ずつできるかなという気はしないでもないんですけれども。

吉岡委員。

吉岡委員 既に薄茶の、グレーになっているところも、またテーマによっては再開する余地がある。具体的に言いますと、敦賀1号機が廃止される。原子炉の廃止とは一体何なんでしょう、その際にどういうことが予想されるので、どういう対策があるのでしょうかというようなことをテーマにするなら、この地域では敦賀1号機だけじゃなくて、ほかにも出てくる可能性はあると思いますので、そういうテーマの最初の機会として福井県というのは選択肢だと思います。

木元座長 その場合は福井市、敦賀市のどちらが良いか。

吉岡委員 ちょっと悩むところですね。福井市かな。

中村委員 ただ福井市になると、ちょっと消費地に近いんだよね。立地県ではあるけれどもね。

小川委員 廃止措置でしたら、東海もやっているんですから。

吉岡委員 より大規模に、何基もやるのは敦賀。

小川委員 それはそうですけれども、でもその廃止措置という観点でいくんでしたら、敦賀はまだ大分先。

近藤原子力委員長 廃止措置は、地域では折り込み済みなのではないですか。地元ビジネスにつながるということで既に、いろいろなアクションがとられ始めています。

木元座長 もうみんな、思いつきでも、どんどんご意見、ご自由に交わしていただければ。

東嶋委員。

東嶋委員 私も思いつきです。最近、浜岡でしたか が地震に遭うと首都圏が壊滅するとかいう本が出たり、週刊誌で取り上げられたりしていて、一般の人は不安に思っていると思うんですが、この網かけのところを見ますと、東京や首都圏近郊で一番最後にやったのは平成16年なんですよ。もし、今年2回開催するんだったら、やはり一度は東京が首都圏でやっていただいて、そういう耐震の話と、それからもう一つはどちらのテーマにするかは討論の結果ですけれども、耐震の話と、それからプルサーマル。プルサーマルについても、名前は知っていても、どこか東京から遠いところでやられるというような、

その程度の認識だと思うんですね。ですから、1回はそういう形でやられた方がいいんじゃないかと思うんですが。

木元座長 そうすると、首都圏というか大都市だとすると、今おっしゃった東京とか大阪という声も上がりましたが、東京が良いですか。

東嶋委員 何か放射性物質が流れてきて東京が壊滅すると言っているから、東京がいいんじゃないかと。

中村委員 地震、耐震はできないでしょう。

木元座長 あの本を書かれたのは御前崎で開催したときにいらした方なんですよ。この間の姫路で出て頂いた小若さんのところに所属にしまったのね。インパクトのある書きぶりですけどもね。

あと何かご意見ございますか。でも、そういうおおっというテーマで開催してもいいかもしれません。

中村委員 現実には、どうやってできるかというふうに考えたときに、特に地震耐震の問題というのは、これははっきり言ってイベントとして成立しない。しかるべきパネリストとか、そういう方たちも用意できないし、地震学者というのは、耐震学者とはまた違うし、これは非常に難しい話になって、多分現実には成立しないと僕は思うんですね。ただ消費地で何かやったときに、いろいろな情報が流れてきますねという中で、首都圏直下型であるとか発電所の耐震問題というのが出ていますねという、one of themで語り合うということは可能ですけども、それをメインテーマにしてというのは、多分これは成立しないんじゃないかと思います。そのone of themにするとしても、しかるべき情報を持ってご意見を言っていて、特に原子力関係と地震、耐震ということだけで言っただけの方というのは、これまた人選が極めて難しいというか、そういう方がいない。

木元座長 大変に悩みますね。批判的な方々の集会でも「誰かいませんか」とこちらにお尋ねになるぐらいですから、やはりお出になりたくない方が多いんじゃないかと思いません、学者の方の中で。

東嶋委員 今のお話を聞いて、やはりそれだったらプルサーマルの方がいいかなと、素直に思ったんですけども。それで、プルサーマルというテーマで消費地で1回やっていただきたいなと思うんです。

木元座長 消費地でね。具体的に消費地だったらどこがいいですか。

中村委員 近藤先生、何か昔を思い出しますよね。10年近く前のね。

近藤原子力委員長 そうですね。その前に中村さんから耐震は、難しいとおっしゃったんだけれども、今、原子力安全委員会が耐震指針を改訂しているわけですから、これが終わると彼らには説明責任があるので、我々が手を出す必要はなくて、むしろ原子力安全委員会の方でこれについて関心ある人々に説明する必要がある。そういうこともあわせ考えて私どもの仕事ではないのではというふうに思いますね。

ブルサーマルですけれども、この件でここにいらっしゃる方は随分とお疲れじゃないかと思うのですが。中村さんを初めとして、いろいろなところのパネル討論の来賓に、お名前が出ているように思います。そういうことで大変お忙しくしておられる方に再び似た内容でお付き合いいただくのはどうかなという感じがいたしますけれども。

吉岡委員 ブルサーマルでは、プルトニウム利用計画というのがことしの1月に生まれましたけれども、やるんだけれども具体的計画は立てていないという3つの事業者があって、具体的には札幌、仙台、金沢かな、その辺でやるというのは非常に新鮮であって、先手を打つという意味もある。

木元座長 これも皆様とご検討の上で決めさせていただきたいと思います。

近藤原子力委員長 吉岡委員の提案は、そういう観点で、消費地を選ぶとして、どうかということですかね。

中村委員 それはあると思うんですよね。そちらの方向の方があると思います。

木元座長 小川委員。

小川委員 市民参加をコンスタントにするということだったら、何か大きな事件がなければできないというんじゃない困るわけで、ですからコンスタントにできるように、あいうえお順にやっていくとか、何も無いときには消費地、立地というふうな、そういう一つの法則を作っておかないと、何かなきゃできないということになりますし、逆にそういう法則で計画的にやっていくんですよということでしたら、行く方としても話がしやすいのかなと思いました。

中村委員 ただ難しいのは、何かあるからやるという、何かなきゃできないというんじゃないなくて、何かあるからできないということね。

小川委員 そういうこともあるかもしれませんが。それで、私は北からの札幌かなと。

木元座長 札幌ですね。札幌はすぐできるかな。

中村委員 札幌が、これまた結構微妙なんだよな。そういう意味で言うと身もふたもなくなってくるんですけれども、逆に言うと、札幌はねらわれている場所なんですよ。

小川委員 いろいろなものにですか。

中村委員 はい。もう私のところへも2つは話来ていますから。木元先生のところにも近々もう一個いくんじゃないかと思えますけれども。

木元座長 私は雪、氷の、いわゆる雪氷エネルギー利用で行きますけれどもね。

中村委員 その辺が難しいのと、泊があるんですけれども、札幌とやはり温度差というか距離が相当あるということと、札幌というのがストレートに原子力ということをお話し合う場というのは、本当にもう10年まで行かないかもしれないけれども、七、八年前、プルサーマル始める頃ですよ。全国でいろいろ話を聞いたときにやったぐらいで、あとはいわゆるE T Tの活動のような知識普及型というか、そういうのしかやっていないので、逆の意味で注目もされているんですけれども、200万都市でやはりやるべきだろうという話もあって、ですから幾つか企画がバッティングする可能性はありますね。

木元座長 井上委員。

井上委員 この姫路で放射線利用をまずスタートさせて、私はアンケートの意見はすごくみんな知り得てよかった、もっと知りたいというのがあるので、もし年間、最低2回市民参加懇談会を開く計画があるのなら、この会だけでまた頓挫しちゃったと、いつやるかわからないみたいなものはもったいないと思うので、1回は放射線利用をどこかでやって、これはこれで一本の柱として、しっかりやっていったらどうでしょう。あとは、今いろいろな地域の事情に関して立地なり消費地なり、原子力エネルギーに関することというのは賛成ですけれども、これはちょっと議論に出てこなかったので、ぜひ続けてという感じで。

木元座長 2回じゃなくて3回でもいい。

井上委員 3回ならまたほかにもう一つということで、ぜひこの柱はこれから継続してどうでしょう。

木元座長 姫路でも、また継続してくださいという声が物すごく多かったでしょう。

井上委員 とてもいい反応だったですよ。

木元座長 だから、この盛り上がりみたいなものは大事にしたいので、もし仮に、もう一回放射線利用をやるとしたら、この中ではどの辺がいいですか。

前田原子力委員 僕も井上さんと同じようなことを考えていたんですけれども、原子力のエネルギー利用と放射線利用、2つの二本柱にするということで、それについて国民の皆さん方と話をすると、もっともっとよく知っていただくということを考えたときに、放射線利用というのは非常に身近な、いろいろな応用分野もこれあり、沢山の人ももっともっ

と知ってもらいたいということであるなら、大消費地でやるときに、放射線利用をテーマにしたらどうかなと思うんですよ。原子力発電については、もちろん大消費地の方々が理解していないという不満が立地地域にあることはよくわかっていますけれども、けれども原子力発電利用はやはり立地と非常に密着したテーマであるから、むしろ放射線利用というのは非常に一般的なテーマで、かつ生活に密着したテーマなんだから、大消費地でやる時に放射線利用をやればいいんじゃないかなと私は思っているんですけども。まさに東京でもいいと思います。

木元座長 東京、大阪、そして北海道も候補に入れておいたとして。

中村委員 それでいくなら、路線としては私も賛成なんですけれども、具体的な放射線利用ということの知識を深めてもらうこととともに、やはり基本である放射線、放射能というところをもっと広げたいというのは、やはりその底辺にあると思うんですよ。そういうふうにして考えていくと、割にリアルなことを言うと、もちろん東京、大阪のような大都市も必要なんですが、東北地方ですね。仙台というのはご承知のように、市民参加懇談会はやっていないけれども、いろいろな催しのあるところなんですよ。東北というのは何でも仙台に集中しちゃうんですよ。青森は立地ですからいろいろな催しがありますよね。間に忘れられているところがあるんですよ。ここがはっきり言って、今は原燃と漁協との問題が起きたぐらい、いわゆる放射線利用とか放射能と放射線というような、知識の全然普及していない県が1箇所あるんですよ。全く火力発電所もないという県ですから、その辺を考えると、逆に仙台でやるよりも、岩手なのかなというところもある。それから北海道のときも札幌でそれをやるとか、発電の方じゃなくて、逆に放射線利用ということで、食品照射が一番、逆な意味で身近なわけじゃないですか、彼らはね。

木元座長 いいかもしれない。

中村委員 ええ、だから、そういうとらえ方で札幌とか、譲歩すれば仙台でもいいんですけども、岩手の方が割に現実感、現実的な場所ではありますよね。

木元座長 みんなやはりそれを考えているんですよ、今。地元からのご要望もあって、実は9月に盛岡で放射線をズバリやります。ですから、もしそういう案件が山積しているところだと、そこに何か同じようなものを持っていってもしようがないので、今だったら札幌で放射線というのはありますね。

小川委員 賛成。

木元座長 賛成。

今までご発言がなかった方もいらっしゃるんですけども、新井委員、いかがか。

新井委員 僕はわかりませんが、やはり食品か、放射線関係というのは2つぐらいの大きなテーマになるんですか。原子力というと発電所の話がありますので、それから距離を飛んで、これですと何か別な組織の別な、教育機関みたいなものがおやりになった方がいいんじゃないんですか。つまり、私なんかはここに加わっている意味が全然、私にとってはありませんので。放射線につきましては、私はほとんど、ど素人もいいところで。

木元座長 ですから来てください、是非。

新井委員 いえ、ですから、私がコアメンバーである理由は全然ありませんものですから。1万分の1ぐらいしかわかりませんので、ほとんど私にとっては意味がないと。ですから、市民の授業を受けるようなつもりで聞いたら結構ですけども、そうでない場合での「コアメンバー」という名前で行く理由は、私には一切ありませんということです。

木元座長 そうおっしゃると悲しくなるんですけども、コアメンバーはかくかくしかじかの資格を持っていないといけないということも全くないし、新井さんというパーソナリティーを非常に頼りにしていますので。

新井委員 いや、そんな無責任なものじゃないんじゃないんですか。

木元座長 そういう感じで、毎回お考えを伺わせていただいているのですが。

新井委員 そうなんですか、やはり何かの分野において責任が持てるというような形で参加しているのと違うんですか。

木元座長 それもちろんございますね。

新井委員 それがないんだとすると、それはそういう会議が開かれたときに聞きに行けばいいだけの話ですし、また放射線の話も私が関心が持てるんでしたら、1冊の本を読むことで概ねのことは解決するんだというふうに思うので、何の話をしているのかなと、ずっとさっきから聞いていてよくわからないんですね。努力で済む範囲じゃないかと私は思いますから。

木元座長 そういうことをおっしゃっていただくのも非常に重要なことだと思います。

新井委員 よくわからないんですが、ずっと聞いていてそのことが気になりました。

木元座長 はい、ありがとうございます。

小沢委員、何かご意見ありましたらお願いします。

小沢委員 私もジャガイモの芽に放射線をかけるということには本当に関心がないので、そういう消費者連盟みたいなことをやるようになったのかと聞いていたんです。そういう

のをとっかかりにして、放射線とか放射能とかの違いだとか、危険だとか、そういうことに関心を向けようというご意見があるのは、ああそうですかと思えますけれども、私はおもしろくないです。参加する気はない。

木元座長 食品照射を話題にするわけではないのですが。

小沢委員 食品照射のことが何かきっかけになるとは思わないので、全然無関係だと思います。

木元座長 放射線全体のことなのですが。原子力はエネルギー利用と、放射線利用という両輪で成り立っていますから。

岡本委員、いかがですか。

岡本委員 先ほど中村委員から、ランドデザインがないというご指摘があったんですけども、ランドデザインも去ることながら、私なんかは全体の概念モデルがなくなってきたんじゃないかと思っている。つまり、例えばこれをするこの意味が、最終的には原子力発電に対する社会的需要なり地元の需要なり、そういうものを高めることになるのかどうか分かりませんが、仮にそうだとすると、社会的需要は例えば知識とどんな関係があるのかとか、社会的需要は、例えばこういう政府の原子力政策を担当している方たちのお顔を拝見することとどういう関係があるのかとか、そういう条件を確認して、その条件を満たすようにやっていくというのは正しいわけですね。だから、そうなってくると、例えばこの下部に、そもそもなぜこの3つの分類が必要なのかということがわからないわけです。

私は研究者になる前、大分長い間コマーシャルなどをつくっていたわけです。すると、コマーシャルなどは一番長いやつは24秒ですけども、24秒のものをつくるときにもものすごく調査をしていて、例えば電気釜は、時計がどこにあることが大事なのかとか、同じ電気釜が、銀色をしていると何となく独身の人が使う感じだけですけども、ピンクでかわいい色をしていると赤ちゃんがいる家が使うんだとか、いろいろなことをちゃんと調べていて、それでどの要素を抑えていけば、どれだけの購買が見込めるのかということ、ちゃんとその広報と人口に照らし合わせて数を出していくわけです。そういうやり方で本来、私はコミュニケーション設計というのはするものだと思っているのですが、それを言うと、要するに市民参加懇談会ということは何を目的にしているのか。例えば電気釜を買いましょうという購買行動をとらせるのと同じように、原子力発電所に協力しましょう、立地に賛成しましょうとか、あるいは消費地でしたら、要するにある種のイクイティーが

壊れていることを理解しましょう、自分たちが享受していることを理解しましょうとか、何かある種の、要するにプロパガンダのような構造を社会主義学者としては持たせないと、その後のモデルが書けないと思うわけですがけれども、そもそもこれをやっていることの目的が何か見えなくなってきた、目的が見えないんだけども継続することだけが当意のようになってきているのではないかなと思います。

年に3回くらいの懇談会をやって、それを仮に10年積み重ねても、例えば国民的な世論にそう大きな影響を与えるような可能性はむしろ少ないので、そうだとすると、こういう懇談会ではない、別の方式を考える方がよろしいような感じがしていますけれども。

木元座長 具体的に別の方式というか、やり方、アイデアをお持ちなんでしょうか。

岡本委員 それはやはりあれでしょうね。例えばテレビでコマーシャルを打つこととか、そちらでしょうね。意見コマーシャルを打つこととか新聞に、例えばこういう頻度でこんな半ページの、こういう記事を出しましょうとか、そこへ何か島が帰ってくるまで戦争は終わっていませんとか書いてありますけれども、そういうようなことですよ。

木元座長 話がちょっと、昔にいっちゃんですけれども、市民参加懇談会を立ち上げるというきっかけは、もう十数年前に原子力に対する円卓会議があって、その中の最終的なご報告の中で、原子力委員会の中に市民の声を吸い上げていく、あるいは積極的に自分が乗り出して拾い出していく、または恒常的に窓口があり、そこで意見が言える、そういうものが全くないじゃないかと。そういうものをつくる義務があるんじゃないかというように、ご報告が出ているんです。それをもとにこの市民参加懇談会はでき上がったという経緯があります。ですから、あるときには今おっしゃった知識の普及型でもあるけれども、あるときにはどういう意見をお持ちなのだろうか。例えばプルサーマルというテーマ、あるいは放射線というテーマがある。そうすると、どういうイメージや認識を、あるいはご意見を放射線なら放射線、プルサーマルならプルサーマル持っているのだろうか、そういうお考えを吸い上げていくということが始まりの実態だったんです。ですから、積極的に乗り出す部分もこれからできるかもしれないけれども、正直に皆さんが声をかけてくださる、意見を言ってください、まずそういう場をつくりましょうと。これから原子力がどういふふう動くかはわからないけれども、政策をつくる場合のプロセスにいただいた意見を反映させることができるじゃないかと。今まで、私たちは余りにもご意見を聞かなさ過ぎたという反省が、そこに存在している。そういう中で立ち上げて、常に窓口は開いていきましょうと。コアメンバーが中心になって、自ら出ていってご意見を伺うというのは、年

3回から4回ぐらいという形になったんですね。

ですから、こういういろいろな歴史をたどる 歴史というほど、オーバーなものじゃありませんけれども、いろいろ試行錯誤しながらここまで来ていて、何か見えにくいものになっているということは言えるだろうと思います。

岡本委員 ただ、そうだとすれば、例えば年に3回しかできなくても、それを何らかの方法で、やはり例えば全国のニュースのどこかに押し込むとか、あるいは全部のものをウェブで流しておいて、見たい人は、その全部を一応聴取できる形で提供していて、そのようにしているということをあちらこちらで周知するとか、結局姫路でやったことが姫路でしか効果なければ追いつかないと思うんです。やはり姫路でやったことをほかへ拡大するという装置をつくった上でないと、いつまでたっても真砂を一粒ずつとっているようなことになってしまうと思うんです。

だから、ゴールの設定が何か甘い気がします。つまり何年間かのうちに、例えば世論をこんな状態に持ってこようとか、極端に言うと、こういう項目をやって世論調査で、この程度のパーセンテージの人が賛成するような世論の関係をつくろうとか、目標の設定の仕方があいまいだから、こういうことで済んでいるので、マーケティングで目標がないマーケティングやったら、マーケティング部長はすぐ首になりますから、それはやはりちゃんと目標を、時間とゴールというものを設定するべきではないでしょうか。

中村委員 学者の、研究者のご意見として非常によくわかるんですが、これについて原子力広報のあり方ということで、もう散々議論をされていて、やはりゴールを設定できないのが原子力広報なんですよ。これはもう事実として物語られているんですよ。そのことを、やはりこの市民参加懇談会に当てはめようとする、もともとの役割も違うし、それからそもそも原子力広報とターゲットというのは、極めて僕はなじみにくいと思っっているんですが、それを50歩引いたとしても非常に難しい設定の領域であるというのは、もう確かです。

ですから、これはなかなかそういうテーマ設定とかターゲット設定で戦術を決めて、その前に全体の戦略があつてというようなものと、なかなかなじまない部分が多々あるものなんですよね。ですから、その論理で多分、市民参加懇談会のあり方というのも導き出せないんじゃないかと僕は思います。そのあいまいである部分というのを、いかに上手に利用するかというか、活用するかというのが、もともと木元委員がお考えになったところで、それが今までの原子力委員会にはなかった発想なので、これが存在しているという部分で、

もともとそのあいまいであったり目標設定というようなことを言わない形でつくられたのが、この市民参加懇談会じゃないかなというふうに僕は思っているんです。

木元座長 両方のご意見、とてもよくわかるんです。今、中村さんおっしゃったように、この原子力委員会の市民参加懇談会は、やはり目標を出せないんですね。というのは、目標が出してしまったらもうそれで終わりなんです。目標を探りながら、自分たちが目標と言わないまでも、市民との相互理解の上で、例えば原子力行政を国で決めている問題、原子力委員会が方針を出したならば、これを何とかご理解いただける方法はないかということと探っていく場合もある。それには、まず相手の意見を聞こうというのが大前提になっていますし、難しいんですね。手間暇はかかるし、外からもよく見えないし、もどかしいし。でもそれが現状ですね。

吉岡委員 私は円卓会議の第1期から、この手の会には参加しているんですけども、市民の意見を吸い上げて、次の部分は強調する人としめない人がいますが、政策改善に反映させるという、基本的にそういうことだと私は思っていて、6年やってきているんですが、そういう政策とのリンケージというのがいま一つないというのは、私の不満とするところですけども、基本的に広報が目的ではなくて、違う人の意見を丁寧に聞いて、そこから拾うべきものは拾うという、そういう趣旨の会だと私は思っているんだけど、どうも実際の運営はそちらよりもどちらかというと、今回の姫路のケースのような啓蒙という、より悪い言葉で言えば広報的側面も多分に含まれるという、そういう非常に折衷主義的な性格になって、目標が定められないまま動いてきたというのが私の認識です。

木元座長 意見を言ってくくださる方も、そのお立場はお立場でまたおっしゃることも違うので、吉岡委員のような意見をおっしゃる方もいらっしゃるし、岡本委員のご意見もあるし、中村委員のご提言もあるし、ほかのご意見もある、ということなんですね。でも、そのいろいろなお知恵をこちらで拝借して、これは、こういうことですけども、どうしたらいいでしょうねというような、ご意見をぜひとも頂戴し、そして運営していきたいという、漠としたものですけども強い思いを持っているんですね。その意味でそれぞれ縦横に切っていただいた方が見えてくると思います。ありがとうございます。

出光委員。

出光委員 個人的な意見で言うと、先ほどの話で放射線利用の話をやるというのはいいなと思ったんです。というのは、ブルサーマルとかいきなりやったとしても、多分、参加者の方が利害関係者の方ばかりになりそうな気がするんですね。この市民参加懇談会の市

民を広くとらえるのであれば、プルサーマルとか、そういうのについて、当初は余り意識がない方も、例えば最初の段階で放射線利用で呼んで、次に余り時間をあけずに同じ会でプルサーマルについてやるとか、そういうふうな流れにしていけば、いろいろな広い方々の意見を聞けるのではないかと、そんな気もいたしますので、とっかかりやすいという意味では放射線利用という形で来ていただいて、話を聞いていただいて、その次にというような、そういうステップもあるのかなというのが1点あります。

あともう1個は、原子力の安全性についてもそうですが、被ばくという話があって、いきなりプルサーマルにしる、原子力安全にしる、被ばくの理解、放射線、放射能の理解がなくて、いきなり被ばくの話になってくると、やはりついていけないと思いますので、やはりその前段階としても放射線利用のところの、そこで被ばくの話とか若干入っているというのがいいのではないかと、そういうふうに思います。

木元座長 そうすると、結果として知識普及のような形にとられるかもしれないけれども、現実には放射線は、こういうふうに使われているという大前提が実はあって、そしてそれに対してどういうお考えをお持ちなのか。知らなかったけれどもそうだったのか、というのはもちろんあるでしょうけれども、放射線と聞くだけで、これはとても悪いものだと思っている方がまだいらっしゃると思うとすれば、その本当に底辺のところから、放射線って何でしょうね、というようなことで伺っていくという形は、またとれますね。しんどい作業ですけれども。

碧海委員。

碧海委員 この間の姫路の市民参加懇談会でも、小佐古さんのお話なんかは、私は必ずしも放射線利用の話じゃないと思うんですね。つまり、もっともっと基本的な放射線についての知識のお話であったと思うんです。

私は、放射線をテーマとするということは、必ずしも放射線利用を知らせるということではないと思うんです。私たちの、WENが暮らしと放射線というのをやっているのも、つまりそういう意味であって、原子力に対するいろいろな感情だとか反応だとかというのは、すべて放射線とか放射能とかかわっていると思うからやっているのであって、だから私は余り個別の利用のことに狭く考える必要はないというふうに思います。

中村委員 それは同じで、必要がないというのは、そうやったらだめなんだと思う。まさに岡本委員が言うような、最終的な、それは一つのやはりターゲットみたいなものが見えるためにはセグメントしてやって、食品照射、工業利用とやったんでは、やはりだめな

んだと思う。だから、求めているのは原子力全体に対する理解であるというターゲットは見てくるような形のものにしていかないと、やはりだめなんだろうと思う。

木元座長 新井委員。

新井委員 前に戻ってしまうような関係で申しわけないですけども、この姫路であった中に教育の話が出ていますけれども、この中でアンケート調査の話が出ていますよね。「核分裂がどう起こるかの問いについて中学、高校において欧州と日本を比べ」云々とありますけれども、これはどういう文脈で出てきたんですか。欧州は70%と、これは異常に高いですね。私は、これはうそじゃないかと思うぐらいですけども。資料の7ページです。日本は3割程度と低いと。日本の方は本当にこの程度かなと思うんですけども。ここがわからないで放射線の話はなかなか、逆に言うと、皆さんがこの姫路でやったときにもものすごくよくわかったというのは、私にとっては不思議でしょうがないんです。

小川委員 これは原文振の、95年ぐらいにやったデータで、たしか質問が、中性子が当たって原子核が分裂するという問題が正しいか正しくないかとか聞いたと思うんです。

木元座長 教科書の比較のようなことも実はあって、例えば核分裂に対して子供たちがどの程度知識を持っているかということ聞いたものですよね。それは、いろいろな意味で日本の教科書あるいは教え方の中で、物理であるとか、社会科のエネルギー利用であるとか、その解説のところ、こういうのを教えていないではないか、ということを書いたかったんじゃないかなと思うんです。

新井委員 大学でエネルギーを教えているものですから、この話をするんですけども、大学生の理解度でちょうど半分、話を終えて半分程度しかいきませんね。ですから不思議なんですよ、逆に言うと、今回の話でみんながわかったとか云々となっているのは本当かなという疑問がありまして、半分わかっていればいいぐらいな感じです。だから、3割というのは、より低いのでまた驚いたんですけども。どうして放射線の話がわかるのかと、不思議なんです。

木元座長 碧海委員。

碧海委員 わかったというのは、放射線利用の話だと思う。割に具体的な話題がいろいろ出たので、そのことがわかったと言っているんだと思います。特に女性に結構多いですから。

木元座長 日常的に、例えばタイヤに放射線を当てることにより、非常に強固なタイヤができていたとか。医療面でこれだけ利用されているとか、医療器具に照射して滅菌、殺

菌されているとか、そんなことかもしれない。

中村委員 よくわかったというのは、そういう具体的な利用がわかったということだと思う。実は、非常に参加者が多かったのは井上委員のご協力のおかげで、井上委員はかなり生の声を聞いていらっしゃると思うんです。私も言われましたけれども、「知りたいと思ったことが、今日は聞けてよかった」というふうにおっしゃる方が大変多かったので、まさに、新井委員がでは何わかったのと疑問に思うところだと思うので、ちょっとその辺を報告していただけますか。

井上委員 一つは、パネリストの先生があらゆる分野からお出になられて、そこで一つ一つ具体的なお話をなさったことと、普段何気なく原子力だけは勉強を少しするけれども、放射線のことについて改めて学んだことが非常に少ない、それがくっついた、この会議で。原子力から入って勉強したけれども、少し電気、エネルギーはわかったけれども、いわゆる基本のもとになる放射能、放射線というものが、日本の科学技術なり工業なりを支えているという具体例を、その専門の先生方に直接聞いたことに、非常によかったという反応が出たんだと思います。

だから、専門的に理解したというのではなくて、なるほどという、ああそういうふうになっているのという、そこまで社会は進んでいるのというか、知らないところでそういうふうになっているというのがわかったということだと思います。

木元座長 近藤委員長。

近藤原子力委員長 さっきから何のために市民参加懇談会があるかという議論が繰り返されています。市民参加懇談会の原子力委員会の政策の企画・審議、決定過程における位置づけについては何回も議論されて、頭の整理はできつつあると思っています。今ここで議論しているのは、次は何処でやるのか。何をテーマにやると、この2つのことだと思っていたんですけども、話がいつのまにか、前回姫路の評価になってしまっていますね。

で、この整理を踏まえて一言申し上げますと、私どもは、姫路において会場に来ていただいた方、つまり日本人1億2,000万のうちの170人のためにパネルは討論会をやったわけではないと思います。我々にとって大事なものは吉岡委員が言われたように、そこで交わされている会話、意見等が持つ政策的なインプリケーションなのです。この会合はそれを吸い上げるアンテナショップなのです。我々は政策の論議に、こういうアспектも考慮しながら決めなきゃならないのかということを知るためのアンテナショップとしてやっているのです。ですから170人の人のためになったと言われても ためになる

ということはいいことです、来ていただいたので、そうあることはいいことなんだけれども、狙いはそういうことでやっているのです。

この先の議論でも、市民参加懇談会は、常に「知りたい情報は届いていますか」と問いかけて、何が問題だと思っているかということを知りたいという場であるということによって設計していただくと有難いのです。放射線ということに特化しちゃって、それだけについての意見がかわされるといのはちょっと寂しいというか、投資効果としてどうか、やはり原子力トータルについて意見を聴く会であっていただいた方がいいかなと。私としては、そういう希望を持っているということをお話し申し上げさせて頂きました。

木元座長 ありがとうございます。

時間もちょっと過ぎておりますけれども、まとまらないような状況で話が進んでいるので、15分ぐらいまで、少し延長させていただきたいと思います。次のお時間のある方はどうぞご退席いただいて結構ですので、また次回によろしくお願いいたします。

今、委員長のお話もありましたが、非常に根源的なことを、私もさっき申し上げたのですが、そういう考えでこの会が存在しているということをお示しいただいたんですが、現実の問題として市民参加懇談会はどこかで開きたいと思います。その場合に、テーマを、原子力という大きな観点から広げていってお話を伺うか、それともずばり放射線ということに入っていか。それから場所をどこにするかということもありますし、まだご意見を集約しておりません。

今、ここがいいという意見がありましたら、是非おっしゃっていただいて、それを討議させていただければと思います。さっきから出ているのが、消費地で言えば北海道、札幌市。それから立地地域で言えば、以前、開催しましたが福井とか敦賀というご意見も出てまいりました。島根とか鹿児島とかというのも、リストに上がっております。それと首都圏でやるということもあります。

いかがでしょうか。もし、今特におありにならなければ、今日は決まりませんので、お集まりいただかなくても、メールでもファクシミリでも、ご意見をまた頂戴する形をとらせていただきたいと思います。いかがでしょうか。

近藤委員長。

近藤原子力委員長 バツがついたところというか、評価がネガティブだったところがあったわけですね。そのことは一応アグリーされたのだと思うんです。市民参加懇談会のようなスタイルのものは他にないわけだから、札幌は自分が別の会合で行くから嫌だといっ

た意見は感覚でしかないと思うんですけれども、地元の事情を考えるとご迷惑と感じるに違い無いのでやめておきましょうという意味は考慮に値するのだと思うのです。

そういう意味で、皆さんのご発言を総括すると、立地地域はいろいろあって難しいなど。だから、消費地の札幌とか、中村委員は「盛岡」という言葉を口にしなかったと思うけれども、岩手というのがあった。他方、広島、香川はまだ評価の議論に至らなかった。そういう状態だという認識ですので、これは共有されているとして前進していかれることを期待します。

木元座長 そうですね、これは前回もそうだったんですけれども、広島は何回か候補には上がるんですが、原爆被災地ということでやめになった経緯がありますが、今回も積極的なサポーターはいらっしゃらなかった。

小川委員 今、委員長がおっしゃった市場調査みたいな、アンテナショップであるということだったら、私はすごく気が楽になりました。では、北から順番でやっていきましょいうみたいなことではいかがでしょう。だから広島のとこに来たら広島でやれば、どういう結果になるかも、それもアンテナショップの役割であるという気がします。

木元座長 ありがとうございます。

今、小川さんからそういうご意見が出たんですけれども、札幌にいやどうしてもだめだと、一人お帰りになったのですが、嫌だという方は嫌だと、やめた方がいいというご意見をお持ちの方いらっしゃいますでしょうか。特にいらっしゃらなければ候補に上げさせていただきます。それは、消費地という形で上げさせていただきます。

それから、先ほど立地地域のところで松江の話が出ていたんですけれども、これは市民参加懇談会をやりたいというご意見はちょっと無視できないこともあるので、もう1回事情を伺ってみます。どういう思惑で希望なさっていらっしゃるのか、御前崎を見てこういうのをうちでもやってほしいという、簡単な思いつきかもしれない。松江の市民としてというお声その裏にあるらしいので、それもちょっと伺ってみます。

小川委員 事業者が、どうぞというのはすごく珍しいことです。

木元座長 少々お話が混ぜこぜになっておりますが、何かご意見ありましたら、この際おっしゃっていただければありがたいと思います。

吉岡委員 愛知県というのも、地震も非常に大きいものが起こり得ますし、浜岡からの距離も東京と等距離のようなところで、あとは廃棄物の問題とか、そういうのもあるので、割合関心が高い地域ではないかと思えます。

木元座長 その場合はテーマを決めて、今のようなことをやると。

吉岡委員 そうですね。

木元座長 そういうご意見もメモさせていただきます。

ということで、幾つか事務局と整理をさせていただきます。それをもとにして、また皆様方のご意見を、恐縮ですけれども伺わさせていただくことにいたします。またご意見をいただいて、それをお返しすると、こういう方向をとらせていただきますので、よろしいでしょうか。

本当に、今日もありがとうございました。何か右往左往しながら進行もさせていただいておりますが、市民参加懇談会の性格そのものも、そこにあるんじゃないかなという気もしておりますので、お許しいただきたいと思います。

では、事務局の方から何かありますか。

赤池補佐 先ほど先生からございましたとおり、次回開催地につきましてはちょっと議論を整理して、また先生方にメールまたはファクスでご連絡、ご相談させていただく形にさせていただきますと思います。ということで、よろしく願いいたします。

以上でございます。

木元座長 それから、議事録の方はいつものように公開させていただきますので、よろしく願い申し上げます。

今、私の頭の中にあるのはこの半年の間に2回やりたいということです。早ければ9月ぐらい、そしてあと年末に近いころ、そんな感じしておりますので、どこか頭の隅にとどめていただければありがたいと思います。

今日は本当に長い間おつき合いいただいて、ありがとうございました。またよろしく願いいたします。